

令和7年度 精神保健福祉講演会
～見つめてみよういろんなところ～

“終活”について考えるイタコト展ほか、
健康や福祉に関する展示やワークショップ
等をきらら鎌倉館内で同時開催

ドキュメンタリー映画 「どうすればよかったか？」 上映 & 藤野 知明 監督 トーク

令和8年1月25日(日) 9:40～12:30

開場 9:20

鎌倉生涯学習センターきらら鎌倉 ホール：鎌倉市小町1-10-5

家族という他者との二〇年にわたる対話の記録



申込期間
令和7年11月1日(土)
～令和8年1月20日(火)

参加費：無料

定員150名
事前予約・先着
定員に達し次第締め切り

お申し込みはこちら



障害等により車いす・手話
通訳・要約筆記等の配慮が
必要な方は申込時にお伝え
ください。

(C) 2024動画工房どうしま

*主催：鎌倉市
*企画・運営：地域生活サポートセンターとらいむ
*協力：鎌倉市基幹相談支援センター

お問い合わせ
地域生活サポートセンターとらいむ
TEL 0467-61-3205
Email: seisin.kouenkai@gmail.com

プロフィール

藤野 知明 氏

(ふじの・ともあき)



1966年北海道札幌市生まれ。北海道大学農学部林産学科を7年かけて卒業。横浜で住宅メーカーに営業として2年勤務したのち、1995年、日本映画学校映像科録音コースに入学。

千葉茂樹監督に会い、戦後補償を求めるサハリンの先住民ウィルタ、ニブフに関する短編ドキュメンタリー『サハリンからの声』の制作に参加。卒業後は、近代映画協会ではTV番組やPVのアシスタントディレクターとして勤務したのち、CGやTVアニメの制作会社、PS2用ソフトの開発会社に勤務しながら、映像制作を続ける。2012年、家族の介護のため札幌に戻り、13年に浅野由美子と「動画工房ぞうしま」を設立。主にマイノリティに対する人権侵害をテーマとして映像制作を行なっている。

「山形ドキュメンタリー道場4」に参加した『どうすればよかったか?』(24)が、山形国際ドキュメンタリー映画祭[日本プログラム]、座・高円寺ドキュメンタリーフェスティバル[コンペティション]、台湾国際ドキュメンタリー映画祭、フランクフルト・ニッポンコネクションなどで上映される。現在、『アイヌ先住権とは何か?ラポロアイヌネーションの挑戦(仮)』のほか、サハリンを再取材し、先住民ウィルタ民族の故ダーヒンニユニ・ゲンダーヌさんに関するドキュメンタリーを制作中。

監督作品

- ・短編ドキュメンタリー『八十五年ぶりの帰還 アイヌ遺骨 杵臼コタンへ』(17)
- ・長編ドキュメンタリー『とりもどす』(19)、『カムイチュプ サケ漁と先住権』(20)
『アイヌプリ埋葬・二〇一九・トエベッコタン』(21)など。



鎌倉生涯学習センター（きらら鎌倉）
〒248-0006 鎌倉市小町1-10-5
ＪＲ・江ノ電 鎌倉駅東口より徒歩 3分

- ・公共の交通機関での来場を推奨いたします。
- ・お車で越しの方は近隣の駐車場をご利用下さい。